

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 七野会	代表者	井上 ひろみ	法人・ 事業所 の特徴	平均年齢 87.4 歳。平均介護度は 2.4。利用者の 6 割程度が独居もしくは高齢者世帯。 法人理念である、『その人らしく』地域や住み慣れた自宅で暮らし続けられる事を大切に にし、日々援助にあたっています。
事業所名	小規模多機能施設 和泉の家	管理者	久國 康子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団 体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	人	1人	3人	15人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	会議で確認する機会は増やす。 この総括表や事業所自己評価で出た改善点や目標は、事業計画に組み込むことで意識できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善点は事業計画に取り入れ、会議のレジュメに記載して、毎月確認を行った。</li> <li>達成しにくい改善計画もあり、取り組めていない項目もあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初期支援と連携の自己評価が低め。</li> <li>事故報告等、職員間で振り返り・改善に取り組まれていると感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価で出た改善点を各項目ごとに職員会議で確認と振り返りを行う（毎月の会議で一項目ずつぐらい）</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	ミーティング等で小まめに意見を出すようにする。 それぞれの価値観は違うので、意見交換することですり合わせをおこなう。 環境整備の委員だけでなく皆で取り組んでいけるように意識する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備の委員を中心に会議やミーティングなどで意見を出しあった。</li> <li>片付け易くなったので、整理整頓もしやすくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開放的で明るい</li> <li>整理整頓できている。</li> <li>環境整備の委員会で強化月間を設け、全員で取り組む等も有効かと思う。 5S～整理・整頓・清掃・清潔・躰（しつけ）～のローガンの活用。</li> <li>地域の方が「相談できる場所」と認識されているかを意識できれば。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、各職員で気が付いた点の意見を出し合い、環境整備の委員を中心に意見をまとめて、改善方法を検討し整えていく。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	和泉だよりの発行回数を増やす。 置きベンチの取り組みを検討。 ご利用者との散歩や関わりの中でのゴミ拾い活動などを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>和泉だよりの発行回数は増やすことはできていない</li> <li>置きベンチは完成し、施設の前に設置したが、奥まっている為に利用しにくいかもしれない</li> <li>ゴミ拾いの活動など外に出ていく機会を作れていなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『聚楽だよりの』を地域の方はよく読み込まれているようなので、事業所のことを載せていっても良いのでは。</li> <li>名和公園の木曜日の体操、地域のゴミ拾い活動への参加等、地域に出ることで顔の見える関係が築いていけるかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名和公園の木曜日の体操、地域のゴミ拾い活動、防災訓練などに参加するなど、積極的に地域に向いていく。</li> </ul>

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>引き続き、その方の人となりや地域とのつながりが分かるよう、ご家族やご本人から教えてもらい、生活歴アンケートも活用する。 また訪問時に地域に出ることで、繋がりや地域の特徴を知る。少しずつ散歩や地域お店へ出かける等のレクリエーションも再開していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活歴アンケートよりも、実際には訪問の時に、その方と地域の方とのつながりがわかることが多かった</li> <li>地域へ出掛ける取り組みはあまり出来ていなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務をしながら『利用者以外のご近所の心配な方』を発見することはまず難しいと思うが、送迎や訪問で地域に出る際に、意識してアンテナ張っておくことが大事かと。包括へ情報共有することで支援につながっていく場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問等でその方の地域との関わりを意識し、本人と一緒に出掛ける機会を増やす</li> </ul>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>より分かりやすい資料を心掛ける。地域や地域の高齢者の情報は共有し、職員皆にしっかりと発信し全員で意識できるようにしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様子がわかるように写真を資料に掲載している</li> <li>職員全員で共有できていたか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議の主旨やどういうメンバーが参加しているのか等、事業所の他の職員がどれくらい把握しているか？実際に地域(送迎や訪問)に出る職員が会議に参加・理解することで、地域の情報にアンテナを張りやすいかも。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご利用者やご家族に参加して頂けるようにする</li> <li>他の職員も会議に参加できるようにする。報告書や議事録を全職員が確認する。</li> </ul>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>BCPを完成させる。地震想定の実施も実施する。 火災想定についても、課題を整理していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BCPの作成はできたが、実際に機能するのか訓練はできていない</li> <li>夜間の避難訓練での課題は、解消されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間想定避難訓練で、EVが止まってしまった場合の避難方法の難しさが出ていたが、消防や警察に相談してみるのも良いかもしれない。</li> <li>災害時(訪問中や夜間の想定)の連絡方法の確認等もしておくといいいのでは。</li> <li>事業所のBCPを地域に発信したり、聚楽学区の避難訓練にも参加していけるといいのでは。(協力施設としてできることについても検討していけるかと(食料の備蓄、ポータブル電源のこと等々)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間想定避難時の課題を専門家(消防など)に相談する</li> <li>地域の防災訓練に参加する</li> <li>地域に事業所の防災対策を発信する</li> </ul>